

## 病理検査学 Pathology and Histotechnology

### 【乳がんのホルモン作用に迫る～内分泌療法の向上を目指して】

(教員：鈴木 貴教授、高木 清司講師)

日本人の死亡原因の第一位はがんであり、その治療の向上はきわめて大切です。なかでも乳がんは日本人女性のがんの中で患者数が最も多く、しかも増え続けています。乳がんの発育進展には女性ホルモンが重要な役割を担っているため、女性ホルモンの作用を制御することで乳がんを治療することが可能です。そこでこの分野では、乳がんにおけるホルモン作用について研究しています。

当分野では、病気の原因や機序を明らかにする学問である“病理学”を研究の基盤としています。乳がん組織標本を病的に詳細に解析して得られた知見を、細胞培養、動物モデルなどさまざまな研究手法を用いて多角的に検証します (Figure 1)。このように病理学的解析と分子生物学的解析を研究の両輪とし、独自の研究成果を生み出したいと考えています。

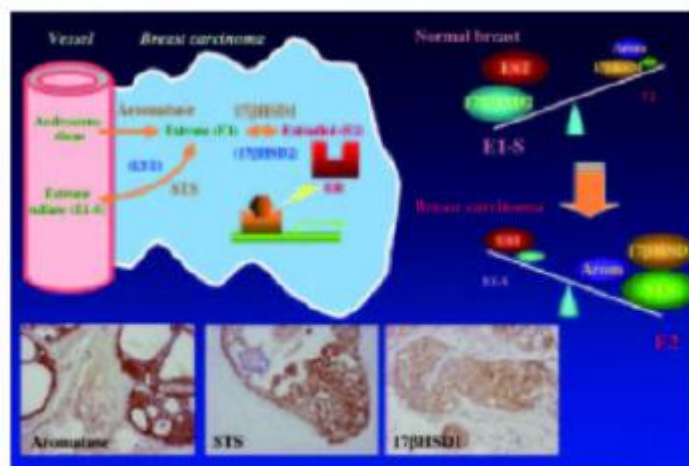


Figure 1 乳癌組織におけるエストロゲン局所合成

#### <主な論文>

Yamaguchi M, et al. Rac1 activation in human breast carcinoma as a prognostic factor associated with therapeutic resistance. *Breast Cancer*. 2020 Sep;27(5):919-928.

Mayama A, et al. OLFM4, LY6D and S100A7 as potent markers for distant metastasis in estrogen receptor-positive breast carcinoma. *Cancer Sci* 2018; 109: 3350-9, 2018.

#### <先生から受験生の皆さんへ>

小さな研究室ですが、皆フレンドリーで、気軽に相談しあえる環境です。我々とともに、楽しいホルモンとがんの世界をのぞいてみませんか？

#### <研究室 Web サイト>

<https://tohoku-kensa.wixsite.com/home>